


<p>学校教育目標 自ら輝け 夢をつかめ ～笑顔・感動 はつらつ植水～</p>	<p>学校だより</p> <p>瑞 穂</p> 	<p>令和6年度1月号 令和7年1月7日 さいたま市立植水中学校 HP uemizu-j@saitama-city.ed.jp</p>
---	--	---

## 「 前へ 」

校長 太田 鋭一

保護者・地域の皆様方におかれましては、穏やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、昨年中は本校に対して温かい御理解と御支援、御協力を賜りましたことを心から感謝申し上げます。本年も生徒の夢や目標の実現に向けて、教職員一同、心を合わせて一丸となって教育活動に取り組んで行きたいと思っております。本年も、どうぞよろしく願いいたします。

さて、年末年始は様々な競技の大会が開催されます。最近<sup>もっば</sup>は、専ら、テレビの前での観戦となりましたが、以前は、競技の臨場感を肌で感じるために会場に出向き応援していたこともありました。今年の箱根駅伝では、青山学院大学が優勝し、箱根駅伝2連覇を達成しました。毎年、それぞれの競技において様々なドラマが生まれ、新年に向けた活力を得ます。この冬、ラグビーの試合を観戦していて、ある言葉を思い出しました。私が通っていた高校は、花園（全国高等学校ラグビーフットボール大会全国大会の通称）に何度も出場したことがあるラグビーの名門校で、体育の授業でラグビーを行ったり、花園への出場を決める一戦には全校生徒で応援に行ったりしていました。そのような環境でしたので、自然とラグビーの魅力に引き寄せられ、大学生や社会人のラグビーの試合も観戦するようになりました。そこで出会ったのが「前へ」という言葉です。この言葉は、明治大学のラグビー部監督として人生をラグビーに捧げた故北島忠治監督の言葉です。故北島監督は基本的に忠実な戦略を通し、「前へ」というスタイルで明治大学のラグビー部の黄金期を築き上げました。当時、明治大学のラグビーの試合を見ていると、何度もつぶされても陣地を一步ずつ前進することを選択するスタイルが痛快で心が揺さぶられました。困難を避けて通らず、体当たりし乗り越えていく。私は、「前へ」という単純明快な言葉の中に人生の方向性が示されていると思い、この言葉を大変好きになりました。年始にあたり、令和7年度、植水中を一步ずつ「前へ」、前進あるのみと教育活動を推進していくことをあらためて決意いたしました。

最後に、3学期は3ヶ月と短いですが、1年間の総まとめをする大切な期間です。3年生はいよいよ中学校生活最後の学期になります。多くの良い思い出を胸に進級・卒業してくれることを願っております。